

# 大震災被害、進まぬ復興

## 更地で商売、まちを守る

### 宮城・塩釜市民「心傾けて」

#### 中津で報告会

「2年3カ月たつが、復興は思うように進んでいない。どうか今後も私たちに心を傾けてほしい」。21日、中津市の川島整形外科病院(川島真人理事長)で開かれた「塩釜復興支援イン中津」。宮城県塩釜市の商店街で、再開発準備組合の副理事長を務める矢部亨さん(45)が訴えた。

矢部さんは東日本大震災一年かかるといふ。「町を愛当時、東京で難を逃れたものの、多くの知人を亡くした。「自分の命をどう使うのか、この町を次の世代に渡していいのか、真剣に考えた」と振り返る。

地権者主体の再開発としては最も進んでいるが、1・2秒に地権者57人がいる。「事情の違う一人一人と向き合い、心を合わせる作業を続けている。答えはなかなか見つからない」と言う。

更地の中で商売(茶舗)を続けており、以前の姿に戻すには少なくとも2、3

年かかるといふ。「町を愛していても、仕事がなければ人が出ていく。そうさせないために歯を食いしばっている」とも。

放射能を恐れず灯油を運んでくれた県外の友人や、支援を続ける中津の関係者に感謝し、被災経験を踏まえて「日頃から人との触れ合いを大切にしてほしい」と強調。「もし津波が来たらまず逃げて。中津が被災したら東北の仲間を連れて支援に来ます」と誓った。

この報告会は、川島理事長が現地で出会った矢部さ

んを招いて開催。病院職員ら約100人が耳を傾け

た。川島理事長は「復興は想像以上に進んでいない。震災を風化させず、支援の継続が必要」と訴えている。(三浦誠一)



真堂 理念  
やさしく・心  
やすめます  
やります  
患者から評価  
思えます  
と生  
向上  
現地の様子を語る矢部亨さん(右)と川島理事長(中津市の川島整形外科病院)



産展」も開催される。午前11時からはチャリティー演奏会がある。問い合わせは同店(☎0979・24・5366)。

きょう支援物産展  
23日には、市内のスーパー細川万田店で支援企画「大塩釜物